

春日井市



【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要						
	自治体名		春日井市	担当部局名	健康福祉部地域共生推進課	人口
						306,681（人）＜令和2年10月/国勢調査＞
	自治体内連携	庁内連携部局（メイン）	健康福祉部地域共生推進課・健康増進課・障がい福祉課・生活支援課、市民生活部市民生活課・多様性社会推進課、こども未来部子育て推進課・こども家庭支援課・保育課、教育委員会学校教育課		庁内連携部局（メンバー）	健康福祉部介護・高齢福祉課、市民生活部戸籍住民課・保険医療年金課、財政部収納課、まちづくり推進部住宅政策課、上下水道部上下水道業務課、市民病院医療連携室
		連携内容	市民生活の相談窓口を設置する課と孤独・孤立の課題を共有し、連携体制を構築		連携内容	孤独・孤立になりうる出来事に伴う手続き窓口を担当する課と孤独・孤立の課題について共有
2.形成をめざす地方版連携PFの姿						
従前の取り組み ※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	❑ 重層的支援体制整備事業では、多機関協働による地域支援研究会を設置し、包括的な支援を担う人材育成に取り組んでいる。 ❑ 高齢分野では、市独自の地域ケア会議の仕組みを活用し、住民が主体となり地域生活課題を解決する仕組みづくりに取り組んでいる。 ❑ 昨年度1つの地域で、PFを立ち上げ取り組みを開始。		実現したい状態 ※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール	❑ 昨年度立ち上げたPFを分析し、地域アセスメントの項目を整理し、新たに他の日常生活圏域でPFを立ち上げる。 ❑ PFは、市地域共生推進課と社会福祉協議会に配置する第2層生活支援コーディネーターの共同企画・運営とする。	
				最終的なゴール	❑ モデル地区での取り組みを横展開することにより、市全域で孤独・孤立に気づき、支える体制づくり。	
3.地方版連携PFの外部連携体制				4.PF連携による価値や工夫_考え方		
地方版連携PF ①（既存拡大） 立ち上げ年度 令和5年度	参画メンバー	居場所づくりの活動団体、NPO法人、UR生活支援アドバイザー、まちづくり会社、社会福祉法人、地区社協、民生委員児童委員、コミュニティナース、第2層生活支援コーディネーター		❑ 地域特性に応じたPFを作るため、地域アセスメントを行い、共通の地域特性をもつエリアを単位とするPFを立ち上げる。令和5年度にモデル地区として立ち上げた藤山台・岩成台地区に加え、令和6年度は同じニュータウンであり隣接する高森台・石尾台地区まで拡大しニュータウン地区PFとして展開。 ❑ PFでは、福祉分野に限らず、居場所や交流を目的とした活動団体や地域活動に積極的な企業や社会福祉法人などに参加を呼びかける。 ❑ PFの運営は第2層生活支援コーディネーターを中心に市地域共生推進課が共同開催し、PF運営のノウハウを蓄積し、人材を育成しながら数年をかけて地域に根付かせる。		
	選出・打診時の工夫	第2層生活支援コーディネーターの協力により、居場所づくりを意欲的に行う活動団体を選出・打診。				
地方版連携PF ②（新規展開） 立ち上げ年度 令和7年度（予定）	参画メンバー	居場所づくりの活動団体、福祉関係事業者、民間企業、地区社協、民生委員児童委員、コミュニティナース、第2層生活支援コーディネーター				
	選出・打診時の工夫	地域アセスメントにもとづき、そのエリアの核となる活動団体を選出し打診。				

Copyright (C) Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.



【B.連携PFイメージ】

5. 連携PFのイメージ図



【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- 孤独・孤立を市民やPF参加者が我が事化しやすいよう定義し直し、PFの参加者同士の関係づくりと予防的な活動に取り組むPFとした。
- 孤立予防の大切さについて啓発し、PFから生まれたつながりづくりのツールを活かして、PF参加者が市民へ広く周知する情報発信を行う。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1 PF拡大を目指した地域アセスメントの実施	- 昨年度立ち上げた藤山台・岩成台地区のPFを、今後は市内全域へ水平展開していく。 - 水平展開の計画策定や地域・テーマ選定にあたって、地域のアセスメントシートを作成し、各地域のアセスメントを実施した。	- PF拡大にあたって考慮すべき要素をアセスメントシートとして整理し、効果的なPF展開の戦略を立てること。 成果検証結果 ✓ 第2層生活支援コーディネーターとの議論やアセスメントシートの作成により、各地域の特性や社会資源、さらにはPF立ち上げにあたっての課題を可視化した。 ✓ 各地域が持つ強みや地域特性、共通課題等を可視化することができたため、どの地域をどう纏めて、或いは分けて、どのようなテーマでPFを立ち上げるべきか検討が進んだほか、他部門と調整・検討する際のツールにもなった。	9/4ヒアリング実施	なし
2 生活動線上でのリーフレット配布	昨年度公的な場所で配布を行った相談窓口リーフレットを、医療機関や薬局、理美容室、金融機関、スーパー等の住民の生活動線上で配布した。	- 公的機関や福祉施設に訪問しない市民に対しても、孤独・孤立の問題や相談窓口についての周知啓発を行うこと。 成果検証結果 ✓ 全607箇所、全21,262枚設置した。 ✓ 配布先では、客との雑談中にぼろっと困りごとが零れた際に手渡すことができた等の声があった。 ✓ クリニックの待ち時間で手に取りやすく、リーフレットの配布数も多いという声があった。	9月 リーフレット増刷 10月～配布	東栄（約22万）
3 つながりづくりを推進するイベント	PF参加団体と共催で、孤独・孤立予防の展示、地域食堂等による弁当販売、福祉事業所の作品販売、フードパントリー、フードドライブ、地域の小学生による演奏等のステージイベント、キッチンカーの出店等を実施した。	- 地域食堂などの市民の居場所や交流活動について、春日井市東部地域の市民を中心に広く周知すること。 - 参加する市民に対して、孤独・孤立の問題を周知し、予防を啓発すること。 - 住民同士がゆるくつながり、交流できる場を作ること。 成果検証結果 ✓ 約1,000人の住民が来場した。 ✓ 子供からお年寄りまで幅広くアプローチすることができた。 ✓ 来場者アンケートから、多くの来場者が、つながりづくりの活動に関心を持ったことが分かった。 ✓ 来場者アンケートでは、様々な人と出会い交流できる場となったことが好評であった。	12月15日（日）	会場費：まちスウィング（約7万） イベント委託：イー・エフ・ピー（約58万） イベント保険：東京海上日動パートナーズ東海北陸（約4万） 消耗品：市原商店（約1万円）

【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- 孤独・孤立を市民やPF参加者が我が事化しやすいよう定義し直し、PFの参加者同士の関係づくりと予防的な活動に取り組むPFとした。
- 孤立予防の大切さについて啓発し、PFから生まれたつながりづくりのツールを活かして、PF参加者が市民へ広く周知する情報発信を行う。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
4 「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」の作製	- 昨年度、藤山台・岩成台PFにて生まれた「ぶらっとノート」をはじめとしたつながりづくりの活動紹介を掲載するマップ「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」を作成した。 - 紙媒体だけでなく、春日井市HPやPF参加者のSNSなどのデジタル媒体でも周知した。	「ぶらっとノート」をはじめ、つながりづくりに取り組む団体を、市民に広く周知すること。 - 藤山台・岩成台PFでのつながりづくりの取組である「ぶらっとノート」の活動を拡大すること。 成果検証結果 ✓ 公的機関だけでなく、スーパーやスポーツクラブ、飲食店等にて約5,700枚のマップを設置予定で調整を進めており、現時点で約2,000枚を設置した。 ✓ マップを活用してPFへの新規参加団体を募る過程で、ノートの設置場所が新たに9箇所増えた。 ✓ 市民から、とても見やすい、マップを活用して困っている方に積極的に居場所を教えたい、初めてマップを見た市民からどのようなマップか複数質問があり関心を持ってもらえた、ニュータウンエリア以外の地域でもこのようなマップがあったらいい等の声があがった。	令和7年1月	木野瀬印刷（約33万）
5 シンポジウムの開催	「身近でゆる～いつながり」をテーマに、有識者による基調講演や、市内で居場所やつながりづくり活動を行う活動団体によるパネルディスカッションを行った。 「ぶらっとノート」の展示も行い、孤独・孤立には予防が大切であることの啓発やつながりづくり活動の周知を行った。	- 孤独・孤立は誰にも起こりうる身近な問題であることや、孤独・孤立を予防する取組について市民に広く周知すること。 成果検証結果 ✓ 159人の市民が来場した。 ✓ アンケートの結果、93%が「身近な地域のつながりは大切だと感じた」、42%が「つながりづくり活動に参加してみたいと思った」と回答した。 ✓ つながりづくり活動の周知だけでなく、実際に支援活動をするきっかけや活動団体間の連携が図られた。	2月16日（日）	講演費：吉田田様（約28万円） 謝金：パネラー5名分（約27万円＋交通費） チラシ印刷：木野瀬印刷（約21万） 消耗品：市原商店（約2万円） お弁当：ちいき食堂（約7千円） クリーニング：中日本リネン（約2千円）

【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

- 孤独・孤立を市民やPF参加者が我が事化しやすいよう定義し直し、PFの参加者同士の関係づくりと予防的な活動に取り組むPFとした。
- 孤立予防の大切さについて啓発し、PFから生まれたつながりづくりのツールを活かして、PF参加者が市民へ広く周知する情報発信を行う。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）		
6 つながりサポーター養成講座の開催	孤独・孤立を予防し、当事者を支援するために日常の中で何ができるのかを学び、「つながりサポーター」養成講座の講師を育成するための講座を開催した。	- つながりサポーター養成講座の講師を育成することで、今後市内にて「つながりサポーター」の養成を進めること。 <table><tr><td>成果検証結果</td><td> ✓ 庁内他部署や社会福祉協議会等、計22人が受講した。 ✓ アンケートの結果、回答者の100%が周囲の困っている人を助けようと思ったと回答した。 ✓ 次年度以降のつながりサポーター養成講座の活用方法の検討が行われた。 </td></tr></table>	成果検証結果	✓ 庁内他部署や社会福祉協議会等、計22人が受講した。 ✓ アンケートの結果、回答者の100%が周囲の困っている人を助けようと思ったと回答した。 ✓ 次年度以降のつながりサポーター養成講座の活用方法の検討が行われた。	1月22日（水）	謝金：山田様(3万円+交通費)
成果検証結果	✓ 庁内他部署や社会福祉協議会等、計22人が受講した。 ✓ アンケートの結果、回答者の100%が周囲の困っている人を助けようと思ったと回答した。 ✓ 次年度以降のつながりサポーター養成講座の活用方法の検討が行われた。					

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- モデル地区を参考に市内他地域でPFを立ち上げを継続し、市内全域に水平展開できる体制をつくる。
- モデル地区PFから生まれたノートやマップは、つながりづくり活動を行うツールとして活用する。

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- PFの活動を知った他の活動団体から参加したいとの申し出があった。
- イベント実施時に新聞の取材が行われた。

【C.試行的事業一覧】_1.PF拡大を目指した地域アセスメントの実施

概要

- 昨年度立ち上げた藤山台・岩成台地区のPFを市内全域へ水平展開していくにあたって、地域のアセスメントシートを作成して、各地域のアセスメントを実施した。

工夫点

- アセスメントシート作成にあたって、市地域共生推進課と、地域密着型で地域支援を実施している第2層生活支援コーディネーターとで各地域の特徴や、新規PFの展開先について議論を行った。

ねらい

- 各地域の特徴や孤独孤立リスク、テーマ、最適なPF立ち上げ方針を整理し、効果的なPF展開の戦略を立てること。

結果

- 各地域の特性や社会資源、さらにはPF立ち上げにあたっての課題を可視化した。それにより、どの地域でどのようなテーマで立ち上げるかの検討が進んだほか、他部門と調整する際のツールにもなった。

アセスメントシートとアセスメント項目（一部抜粋）

代表的な地域属性：

その地域の特徴を端的に示す

A.地区属性

1. 代表的な地区属性

代表的な地域が複数存在する場合は複数にチェック。

☐ 古くからある住宅地

☐ 新興住宅地

☐ ニュータウン

☐ 農地が多い

☐ 工場が多い

B.集合可能施設

1. 集合可能施設名

集合可能施設が存在する場合は、その施設名を記入してください。

(ex) ぐるっぽふじとう

※集合可能施設がない場合は、Bは未記入の上でF(4)を記入。

C.アセスメント項目①

1. 孤独・孤立リスクの検討（統計）

各項目の数値を記入してください。

■ 高齢化率	20.0	%
■ 単身世帯数		世帯
■ 単身世帯割合	17.5	%
■ 子育て世帯数		世帯
■ 子育て世帯割合	22.0	%
■ 転出入者数		人
■ 転出入者割合	13.0	%
■ 就学援助利用者数		人
■ 就学援助利用割合	6.5	%
■ 生活保護被保護人員		人
■ 生活保護率	1.5	%

高齢者の単身世帯が多い場合は、孤独・孤立のリスクが高い可能性がある。

転入が多く子育て世帯も多い場合は、一人で子育てをする親が多い可能性がある。

異国世帯は、生活保護世帯のみでなく、就学支援世帯も考慮する必要がある。

孤独・孤立リスク：

地域特性を定量的・定性的に確認し、類似地域を洗い出す

地区への介入の検討：

行政が介入するニーズや緊急度を確認

E.アセスメント項目③

1. 地区への介入について検討

該当する項目にチェックしてください。

(1) まちづくりを牽引する主体が存在	(2) 合意形成が困難	(3) 土着市民が多い	(4) リソース不足
※市の支援を待たずとも既に自主的にまちづくりを進める主体がある。	※複数の関係する主体や委員が地域に存在する場合、市の介入は必要ではない。	※伝統的地域づくりの風土があり、市の介入が必ずしも必要ではない。	※活動者が不足、課題解決意欲が低い地域は、直接介入よりも地域の活動への巻き込みを検討。

周辺地区との共通点：

周辺地域と一緒にPFを立ち上げることができるか、共通の課題や社会資源等を確認

F.アセスメント項目④

1. 地区の統合について検討

近隣地区において共通しているものがある場合はチェックと該当地区名を記入してください。

	施設名・活動者名・課題名	該当地区名
(1) 施設 (駅、店舗、商店街等)		
(2) 活動者 (地域をまたいで活動する児童、若者等)	(ex) エスライフ	〇〇区、●●区
(3) 顕在化している課題		
(4) 近隣の集合可能施設		

【C.試行的事業一覧】_2.生活動線上でのリーフレット配布

概要	昨年度公的な場所で配布を行った相談窓口リーフレットを、医療機関や薬局、理美容室、金融機関、スーパー等の住民の生活動線上で配布した。	ねらい	日常的に訪れる場所でリーフレット配布を行うことで、公的機関や福祉施設を訪問しない市民にも孤独・孤立問題やその相談窓口の周知をできるようにした。
工夫点	- 各団体へ趣旨等の説明を行い、理解を得たうえで配布をした。 - 困っている人に手渡しを実施してもらう等、必要としている人に届きやすくした。	結果	- 全607箇所、全21,262枚設置した。 - 配布先では、客との雑談中にぽろっと困りごとが零れた際に手渡すことができた、との声があった。

リーフレット（片面抜粋）

**気軽に掛けたり
お話しできる場所を
見つけてみませんか？**

このリーフレットは、SNSや電話など、自分のことを話せる相談先や、趣味や地域の集まりなどあなたの居場所を見つけるためのお手伝いをします。

ご自身のため、大切な人のために
ご活用ください。

**趣味のサークルや
ボランティア活動などに関心がある方は
こちらへ気軽にお問合せください**

連絡先：0568-85-4321
(総合福祉センター内)
(FAX: 0568-86-3156)

受付日時：平日 8:30～17:15
相談窓口：春日井市社会福祉協議会 地域支援課



**直接は話づらい…、
SNSで相談してみませんか**

●あなたのいばしょ
内 容：年齢や性別を問わず誰でも無料・匿名で利用できるチャット相談窓口です。

受付日時：24時間 365日



●あいちこころのサポート相談
内 容：愛知県に在住、在勤、在学の方を対象とした、SNSを活用したこころの悩み相談です。

受付日時：月～土曜日 20:00～24:00
日曜日 20:00～翌日 8:00



●10代20代女性のためのLINE相談
内 容：親に言えない悩みがある、対人関係で悩んでいる、居場所がない、なぜか分からないけど涙がでる…。どんなことでも大丈夫です。ひとりで悩まず相談してみませんか。

受付日時：月・水・木・金・土曜日
10:00～22:00



●生きづらびっと
内 容：「死にたい」「消えたい」といったつらい気持ちを安心して話していただくことのできるSNS相談です。

受付日時：毎日 8:00～22:30



**おせっかいかも
しれませんが・・・**



今、心配はないけど...
楽しく過ごしたいな...

**あなたに知ってほしい
相談窓口があります**

春日井市健康福祉部地域共生推進課
電話 0568-85-6251
FAX 0568-84-5764
chiiki@city.kasugai.lg.jp



春日井市 kasugai City
令和6年9月発行

設置先・設置場所数（一部抜粋）

設置場所	設置場所数
春日井市医師会の会員医院	181
春日井市薬剤師会の会員薬局	144
春日井市歯科医師会の会員歯科医院	113
美容組合の会員美容室	90
理容組合の会員理容室	76
株式会社バローホールディングス(スーパー)	3

ポイント

- 理容室等、市民と直接話す機会が多いところでは、**雑談内容に応じて適宜手渡し**こととした。
- クリニック等、**待ち時間**が発生するところでは、受付等に設置することで手に取りやすく、配布数も多い。

【C.試行的事業一覧】_3.つながりづくりを推進するイベント

概要

- PF参加団体と共催でイベントを開催し、地域食堂等による弁当販売、福祉事業所の作品販売、孤独・孤立予防の展示等を実施した。

工夫点

- 参加者が楽しむことを最優先とし、安全確保や環境整備等は自治体で行いつつ、コンテンツは主催の活動団体の自主性に任せることで、民間の自由な発想を活かした。

ねらい

- 地域食堂等、つながりづくりや居場所づくりの活動を近隣住民を中心に広く知ってもらうこと。
- 孤独・孤立問題を周知し、予防を啓発すること。

結果

- こどもからお年寄りまで約1,000人の近隣住民が来場した。
- 来場者アンケートから、多くの来場者が、つながりづくりの活動に関心を持ったことが分かった。

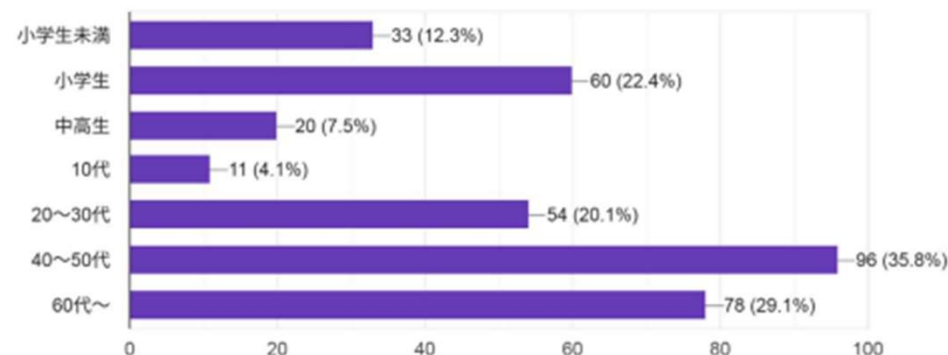
当日の様子



来場者アンケートの結果

Q.年齢を教えてください。

268 件の回答



Q.このイベントで楽しかったこと、楽しかったものは何ですか？（一部抜粋）

- ✓ **色んな方々との交流**
- ✓ イベントを通じて**いろんな団体の支援とつながる**
- ✓ お店の人と話したこと
- ✓ **老若男女が接する**まつり全体
- ✓ 久しぶりに子どもと一緒にイベントごとに参加した
- ✓ 孫と遊ぶこと
- ✓ **日頃の相談ができる**場所を提供していることがほっこりした

工夫ポイント

- **スタンプラリー**を実施することで、来場者が各ブースを巡回し、様々な活動団体と交流できるようにした。
- 小中学生のブラスバンドやオカリナクラブの演奏等、**ステージイベント**により、子どもやその親世代から高齢者まで集客した。
- **アンケート回答によりフードパントリーで食料をもらえる**仕組みにすることで、多くの人に回答してもらえるようにした。
- 主催団体のコネクションを活用し、ポスト投函だけでなく、**小学校や幼稚園、保育園への広報**も行った。

【C.試行的事業一覧】_4.「ゆるやかなつながりづくり応援マップ」の作製

概要

- 昨年度、藤山台・岩成台PFにて生まれた「ぷらっとノート」をはじめとしてつながりづくりの活動紹介を掲載するマップを作成した。

工夫点

- 掲載団体運営者の顔写真とメッセージを載せることで、読む人が居場所に対して親近感やあたたかさを感じられるようにした。
- 身近なところでマップが手に入るよう、飲食店やスーパー等にも配置した。

ねらい

- 人々がゆるくつながりあえる「ぷらっとノート」の取組を広く知ってもらうこと。
- ノートを設置している団体の活動内容に関心を持ってもらい、気軽に訪問できるようにすること。

結果

- マップを活用したPFメンバー募集過程で、9箇所ノートが新設された。
- 市民から、マップを活用して困っている方に積極的に居場所を教えたい、ニュータウンエリア以外の地域でもマップが欲しい等の声があがった。

「ぷらっとマップ」(片面抜粋)



設置予定先・枚数 (一部抜粋)

設置予定場所	設置予定枚数
スーパー	700
認知症カフェ	600
飲食店	100
スポーツクラブ	100
無料塾	50
PF参加団体	600
民生委員・児童委員	640
社会福祉協議会	210
公的機関・施設	892

工夫ポイント

顔写真を掲載するアイデアは、PFにてぷらっとマップの方向性をディスカッションした際に生まれたアイデアである。その他、**PFメンバーの提案を取り入れて作成した。**

【C.試行的事業一覧】_5.シンポジウムの開催

概要

- 「身近でゆる～いつながり」をテーマに、有識者による基調講演や、市内で居場所やつながりづくり活動を行う活動団体によるパネルディスカッションを行った。また、「ぷらっとノート」の展示も行った。

工夫点

- 基調講演でつながりづくりや安心できる居場所の重要性を周知し、その後春日井市のつながりづくり活動や活動団体の思いを伝えることで、これらの活動を参加者がより身近なものと捉えられるようにした。

ねらい

- 孤独・孤立問題が身近な問題であり、人と人、人と地域のつながりが大切であることを広く市民に周知すること。
- 春日井市内のつながりづくり活動を知ってもらい、関心をもってもらうこと。

結果

- 159人が来場した。
- アンケートの結果、93%が地域とのつながりの大切さを感じ、42%がつながりづくり活動への参加意欲を示した。

コンテンツと登壇者

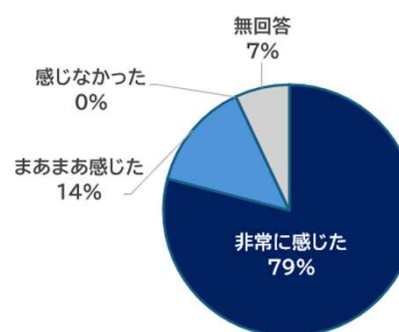
- 孤独・孤立問題や人と人、人と地域がゆるやかにつながりあう活動の魅力に関する基調講演
⇒ 講師：まほうの다가しやチロル堂 共同代表 吉田田タカシさん
- 孤独・孤立問題とつながりづくりの大切さ、市内のつながりづくり活動の周知を目指したパネルディスカッション
⇒ パネリスト：春日井市内の地域食堂、フリースクール、多世代が集う駄菓子屋、社協
コーディネーター：同朋大学社会福祉学部専任講師 加藤昭宏さん



来場者アンケートの結果

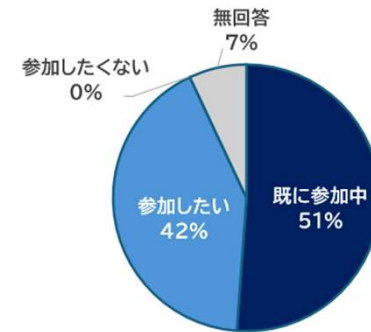
問5. 身近な地域のつながりは大切であると感じたか

N = 43



問6. つながりづくりの活動に参加してみたいと思ったか

N = 43



工夫ポイント

- 広報にあたっては、公共施設でのチラシ配布だけでなく、**PFメンバーの活動場所でのポスター掲示や、イベントやお祭りでの配布**を行った。
- 孤独・孤立が身近な問題であること、そのためには一人一人のアクションが大切であることを講演した後に、春日井市内の取組を周知することで、**つながりづくり活動がより身近な存在であることを知り、自分でも参加・活動しようと動機づけ**られるような構成とした。

【C.試行的事業一覧】_6.つながりサポーター養成講座の開催

概要

- 孤独・孤立を予防し、当事者を支援するために日常の中で何ができるのかを学び、「つながりサポーター」養成講座の講師を育成するための講座を職員や社協向けに開催した。

工夫点

- 継続的につながりサポーター養成講座を実施して市内の支援者を増やしていくために、今回はつながりサポーター養成講座の講師を養成することを目的とした。

ねらい

- 今後のつながりサポーター養成講座の担い手を育成するために、春日井市職員や社会福祉協議会等を対象に、講師養成の講座を実施すること。

結果

- アンケートの結果、回答者の100%が周囲の困っている人を助けようと思ったと回答した。
- 次年度以降のつながりサポーター養成講座の活用方法の検討を行った。

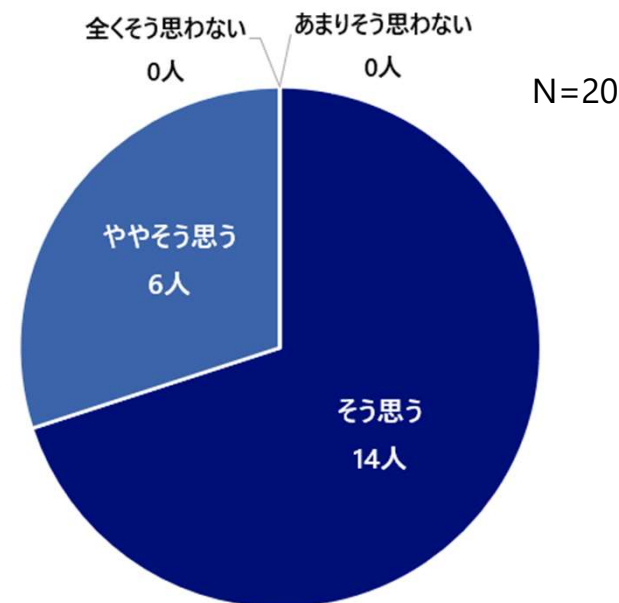
開催概要

- 日時：1月22日（水） 17時半～19時
- 場所：春日井市総合福祉センター 小ホール
- 講師：一般社団法人Shien 代表理事 山田浩史さん
- 出席者：庁内他部署や社会福祉協議会等も含めた計22人



受講者アンケートの結果

Q.周囲の悩みや困りごとを抱えている人をサポートしようと思うか



【D.PF構築プロセスにおける留意点】



【E.ブレイクスルー要因】 アセスメントシートにより、各地域の特徴や課題を可視化

令和6年7月

令和6年10月～令和7年2月

令和7年3月

取り組み課題

- 新規PFの立ち上げにあたり、どの地域にどのテーマで立ち上げるのか決定することが難しかった

その後の変化

- アセスメントの実施により各地域の特徴だけでなく、それまで見えていなかったPF立ち上げに向けた新たな課題も浮き彫りとなった
- 各地域が持つ強みや地域特性、共通課題等を可視化できたことで、どの地域をどう纏めて、あるいは分けて、どのようなテーマでPFを立ち上げるべきか、誰を巻き込んでいくかの検討が進んだ

アクション／ブレイクスルー要因

- アセスメントシートを作成し、各地域の特性や社会資源、課題等のアセスメントを実施した
- アセスメントシートの作成にあたっては、第2層生活支援コーディネーターと市内の各中学校区の特徴について議論。周辺地区との共通点を整理し、PFの範囲について検討するための項目を作った。また、孤独・孤立状態になり得るリスクを量的データで示す項目を設けた。